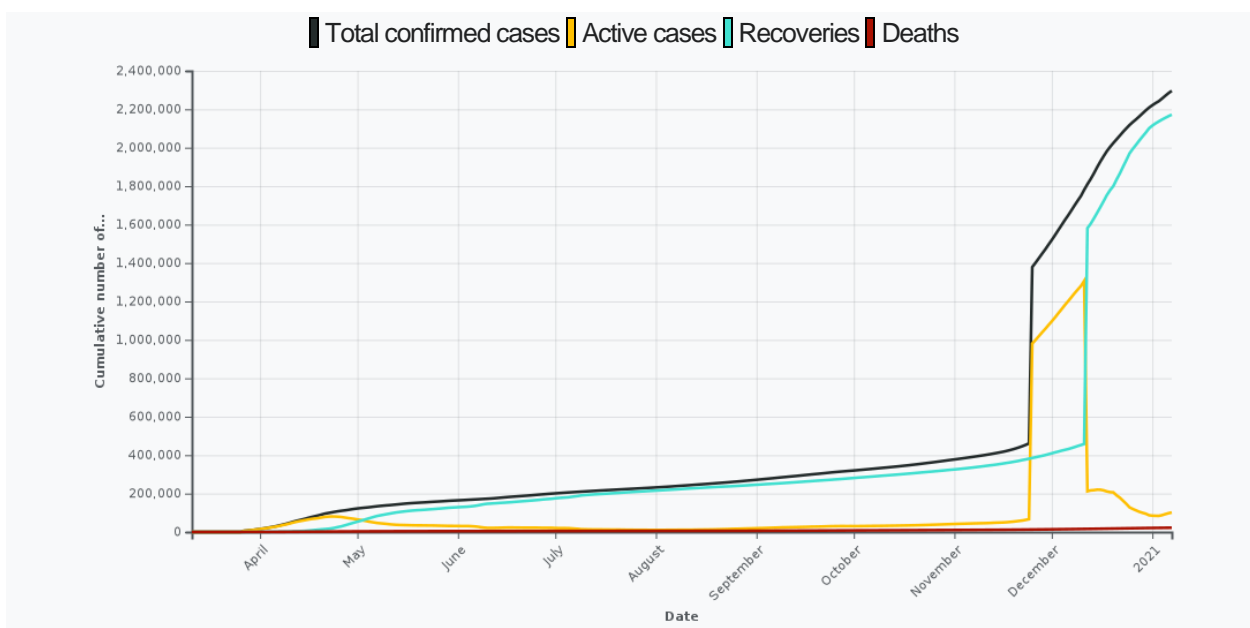


## トルコの新型コロナウイルス感染症の状況 (10)

トルコでは2020年3月10日に初めての新型コロナウイルス感染症の症例が報告され、4月1日には全国的な感染拡大が確認された。5月に一旦収束傾向が見られると、6月以降は経済活動、7～8月にかけては国内外への移動、国外からの渡航者の受け入れ等の制限を大幅に緩和した。しかし感染が再拡大したため、10月に大規模な集会の禁止、11月に子どもと高齢者の外出規制を再び制限、12月に全国で週末の外出規制や飲食店の営業制限等を再開、年末年始に80時間外出禁止等の措置を取った。さらに、英国での変異株の発生を受け、6歳以上の渡航者に対して空路（トランジットを除く）は12/25以降、陸路は12/28以降、72時間以内のPCR検査の陰性証明を義務付けるなど、水際対策も強化した。

2021年1月7日現在、感染者累計2,296,102人（12,171人/日、発症者数1,370人）、重症者3,201人、快復者数累計2,296,102人（8,211人/日）、死者22,2645人（194人/日）、検査数累計25,681,213件（183,003件/日）で、1/1時点で感染者は世界で7番目に多く、死者は18番目に多く、高止まりの状況が続いている。発症者のうち肺炎罹患率は4.3%（12月初旬と比較し増加）、病床使用率は44.2%（同、減少）、ICU使用率は61.7%（同、減少）、人工呼吸器使用率は32.4%（同、減少）で、感染状況はピーク時と比較し39%減少した。尚、地域ではイスタンブール、イズミル、アンカラ、コジャエリ、コンヤの順に感染者数が多い。

現政権は政権掌握以降、国民皆保険制度等で医療体制を拡充し、出生数の増加と平均寿命延伸による人口増に備えてきた。ICUは10万人あたり46.5床（日本は13.5床、ドイツ29.2床）と世界最多。また、今回の新型コロナ対応では、2仮設病院（各1,008床）に加え、16病院、2サービスセンターを設置し16,000床増を確保した。医療体制の充実に加え、ロックダウン等の徹底的な感染対策により感染者の大多数がWorking Ageで重症化しなかったため、新型コロナによる死亡率は0.95%（世界139位）で、低くおさえたことはある程度評価されている。コジャ保健相は1/7の会見で、ワクチンの準備が進んでいること、積極的なワクチン接種により、2021年夏の終わりの状況収束を目指したいと述べた。



(Wikipedia より)

《注》国内外から批判を受け、トルコ保健省の統計基準がトルコ独自の基準から国際基準に変更されたため、上記グラフでは11月下旬に陽性者数、快復者数が急増している。11/24までは陽性者は発症者のみを発表で無症状者を含まなかったこと、12/12以降の快復者数は無症状で隔離期間を終えた陽性者を含むようになったためである。感染状況の実態を掴むのは困難といえる。